

円相場は対米ドルで約38年ぶりの安値に

- 6月26日に円は1米ドル160円80銭台と約38年ぶり安値に
- 円買い介入の警戒くすぶるも、円安阻止には不十分か
- 早期に日銀が利上げ、FRBが利下げに動けるかは不透明

■ 円じり安続き、再び1米ドル160円台を突破

6月26日、円相場は対米ドルで160円80銭台と今年4月29日のザラバ安値を突破、一時約38年ぶりの安値を付けました（図1）。世界がコロナ・ショックを乗り越えた2021年以降、主要通貨内で円独歩安が続くなか、足元は対ユーロで170円台（26日は171円台を付け1999年1月のユーロ創設以来の最安値に）、対英ポンドで200円台を付けるなど円の弱さが際立っています。26日夜に神田財務官が「為替の足元の動きは急激」とけん制しましたが、本邦当局が再び円買い介入に動くか注目です（4月29日の介入直後は円が一時的に1米ドル160円から154円に急伸）。

■ 円買い介入だけでは円安阻止が難しい環境

とはいえ、先の円買い介入後も円じり安が続いていたこともあり、目先介入をしたとしても円安米ドル高の抑止効果は限定的でしょう。今年初は米国の利下げ、日本の利上げという日米の金融政策転換に伴う金利差縮小を機に、円高米ドル安へ反転するとの見方もありました。実際、今年3月に日銀がマイナス金利を解除、国内金利は上昇基調も、米連邦準備理事会（FRB）の利下げ先送り観測が意識されるなか、同金利差は高止まっています。

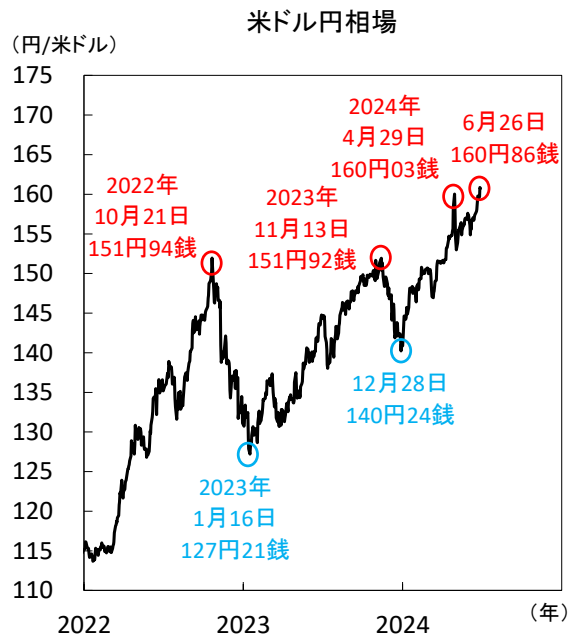
また、6月に利下げを開始したユーロ圏やカナダに加え、今週は豪州でも直近5月消費者物価総合（前年比）が予想外に加速、海外各国がインフレ警戒を緩められないなか、利下げが想定通りに進まないリスクもあります。

■ 早期の日本利上げ・米国利下げに確信持てず

他方、利上げを模索する日銀に逆風も吹き始めています。国内景気が息切れ、海外に比べサービス物価の鈍化も目立ちます（図2）。次週の6月日銀短観で景況感下振れが確認されれば、早期利上げが困難になるでしょう。

対するFRBも今後の利下げ軌道に確信を持てずにいます。28日の5月個人消費支出（PCE）デフレーター、次週の6月ISM景気指数や雇用統計でインフレ高止まりや景気堅調が示されれば、米利下げ後ずれ観測が浮上、円安米ドル高材料となりそうです。当面の円相場は、米景気・金融政策に左右されやすい環境が想定されます。（瀧澤）

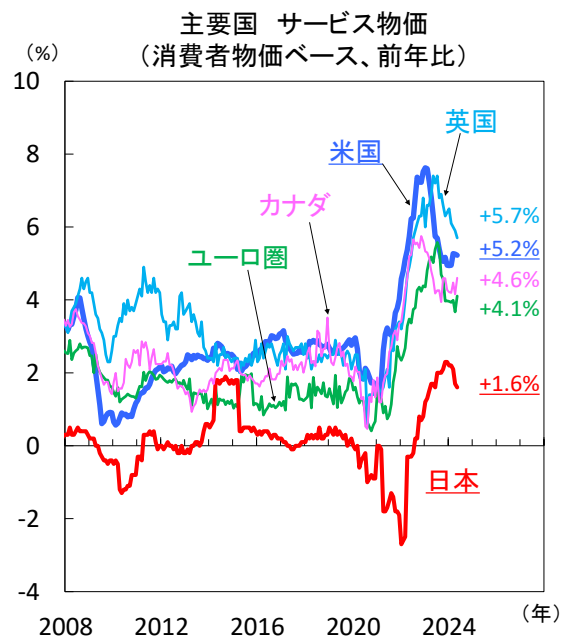
【図1】今年4-5月の円買い介入後も円じり安続き、6月26日に米ドル円は再び160円台に突入



注) 凡例は節目となったザラバの値（赤は円安値、青は円高値）。直近値は2024年6月27日（日本時間午前8時時点）。

出所) LSEGより当社経済調査室作成

【図2】断続利下げを模索する海外先進国だがサービス物価の高止まりが障害の一つに



注) 直近値は2024年5月。

出所) 各国統計局、LSEGより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会